



～みんなかがやく 富田っ子～

富田っ子だより 第20号

富田小学校 学校通信
令和3年3月9日(火)



6年生を送る会 ～感謝を込めて～



2月25日(木)、卒業を間近に控えた6年生に、卒業のお祝いとこれまでの感謝の気持ちを伝える6年生を送る会が行われました。

今年度は、コロナ禍の中での実施となったため全校一斉で行うことができず、1学年ずつ交代して発表を行いました。

6年生は1年生から贈られたメダルを胸に、体育館に入場。1年生から順に、それぞれの学年が趣向を凝らし、練習を重ねてきた寸劇や合唱などを披露しました。



【1年】



【2年】



【3年】



【4年】



【5年】

1年生の出し物は「とみたろう」です。爆発的な人気を誇った「鬼滅の刃」と「桃太郎」をドッキングした創作劇です。一人一人が元気いっぱいの声を出して一生懸命取り組み、6年生からたくさんの笑顔や拍手をもらうことができました。

2年生の出し物は、「春の牧場」の歌、「夜に駆ける」のカスタネット & ダンス & ボディーパーカッション、6年生が2年生のときに歌った歌「明日があるさ」を発表しました。「夜に駆ける」の時、6年生の手拍子が応援となり、会場が大変盛り上がりノリノリの演技となりました。

3年生の出し物は、小学校生活6年間の思い出をテーマにしたお笑い劇を発表しました。少し緊張する場面も見られましたが、堂々と大きな声で発表することができました。6年生に笑ってもらえることができ、3年生の子どもたちも満足そうでした。どのクラスも工夫を凝らして6年生に笑ってもらえるよう頑張りました。

4年生の出し物は、「『心をひとつ』につむいで」というテーマで、4年生が総合学習で練習を積み重ねてきた音楽劇の中の曲から「ほたるこい」と「君をのせて」を披露しました。磨きをかけた美しい歌声が体育館一杯に広がり、とても素晴らしい発表でした。

5年生の出し物は、嵐の「カイト」を歌ったり、NiziUの「Make you happy」の曲に乗ってダンスを披露したりしました。そして、「6年生と言えば、あいさつ、外遊び、学校を支えてくれた」と6年生の印象を寸劇にして発表してくれました。5年生は、学年としての発表はもちろん、6年生を送る会の中心となり、司会進行をはじめ会の運営を全員が一生懸命に頑張ってくれました。さすが5年生、立派な姿を見せてくれました。

どの学年も6年生への感謝の気持ちを伝えるために、当日までいろいろな準備をしてきました。1年生は6年生にプレゼントするメダルをていねいに作りました。また、2年生は児童玄関の壁面に、また3年生以上は体育館の壁面に飾りつけをし、6年生を送る会を大いに盛り上げてくれました。

それぞれの出し物も学年の個性が見られ、とても楽しく、また一生懸命練習した成果が見られるすばらしい発表でした。短期間の練習でしたが、子どもたちはよく頑張りました。

5年生の発表の後、6年生からお礼に、森山直太朗さんの「さくら」の合唱を聞かせてくれました。「6年生の歌がとてもきれいだった。自分たちもあれくらいできるようになりたい。」との感想が聞かれました。



最後に、5年生からは、6年生への感謝の気持ちと自分たちがこの富田小学校を受け継いでいくという決意表明がなされました。またそれを受けて、6年生からは会のお礼と中学校でも頑張りたいと意欲を語ってくれました。

5、6年が全員で顔を合わせる最後の日となりましたが、6年生から5年生へしっかりとバトンが渡され、いよいよ6年生は卒業を迎えます。

特別支援学級学習発表会リハーサル ～みんなで協力して発表できたよ～



毎年、三泗教育発表振興会主催の特別支援学級学習発表会が四日市市文化会館を会場に行われますが、今年度は新型コロナウイルス感染症防止のために、いくつかの中学校ブロック単位もしくはZoom開催となりました。

本校は、2月19日（金）に富洲原中、富田中を本校に迎え、それぞれの学校の取り組みを発表しました。どの学校もよく練習を重ね、当日は子どもたちが堂々と、また楽しそうに発表しました。

本校では、2月17日（水）に本番の前の校内リハーサルを行い、なかよし学級の子どもたちが2学期から練習してきたダンスや絵の発表をしてくれました。今年は四日市の花火大会が中止となりましたが、花火が上がる様子を大きな模造紙にみんなで描き上げ、その前で楽しくダンスを披露してくれました。

今年度は3密を避けるために1～3年生の参観となりましたが、なかよし学級の子どもたちがどんな毎日を送っているのかをまとめたショートムービー（6年生の子が作りました！）が流れ出すとみんな興味深く見入っていました。

人権作文発表会・^{らち}拉致問題「めぐみ」視聴 ～一人一人の人権を考える～



2月17日（水）、4～6年生の子どもたちが参加して人権作文発表会を行いました。

発表会では、6年生の子どもたちが書いた人権作文の中から3人の子どもたちが代表として、みんなの前で作文を紹介しました。発表された作文は、「ミャンマーのロヒンギャ問題から考える人権問題」「マスクをはずして笑合える未来」「みんなちがってみんないい」でした。それぞれの視点で人権の大切さを考える作文でした。

テーマは、身近な人権問題から国際社会で起こっている人権問題まで幅広いものでしたが、大切なことは自分と異なるものであることを理由に排除しないことや他人事ととらえずに自分の問題として自分には何ができるかを考えることではないかと思います。子どもたちにとってこの発表が人権を考えるよい機会になればと願っています。

その後、6年生だけ体育館に残り、社会で学習する国際的な人権問題となっている「拉致問題」について考えるため、「めぐみ」を視聴しました。拉致問題は、国民の生命と安全に関わる重大な問題であり、国の責任において解決すべき重要課題です。社会の教科書にも、2002年に関係国の代表者による会議が開かれ、現在も問題の解決に向けた努力が続けられていることが書かれています。

子どもたちから、「日本にいて、知っておかなければいけない問題だと思った。」「その国の人たち全員が拉致をするといった偏見にならないようにしなければならぬ。」などの感想が見られました。



一人1台タブレットが配備 ～タブレットを使った授業より～



ICTの活用が日常となってきた今、子どもたちに生き抜く力を育むために文部科学省が打ち出したのが「GIGAスクール構想」です。当初の計画では、令和5年度までに日本中の全児童生徒が一人1台パソコンを使用できるよう整備されることになっていましたが、新型コロナウイルスの影響により今年度に前倒して実現されることになりました。

本市では、2月末までに全小中学校に一人1台タブレットが導入され、無線LAN工事、充電保管庫の設置が無事に終わり使用できるようになりました。

本校では、それぞれのクラスでタブレットを活用した授業に取り組んでいるところです。6年の授業では、自分の考えを入力し、その後、画面上に映し出されたクラス全員の考えを読み合って学びを深めていました。

今年度の授業時数の確保について

今年度の授業時数については、3月末に、文部科学省が示している標準授業時数を各学年が50時間程度（6年は30時間程度）上回る見込みとなりました。心配された学習の進捗についても、2月中旬にはほぼすべての学年で遅れを取り戻しており、3月中旬には学習内容をすべて終了する見通しですので、ご安心ください。